

京都大学学術情報リポジトリの 現状と課題

2006年8月29日(火)

京都大学附属図書館

情報管理課電子情報掛

後藤 慶太 goto@kulib.kyoto-u.ac.jp

本日の内容

◆ 機関リポジトリとは何か

- シリアルズクライシス(学術雑誌の危機)
- オープンアクセス運動
- その他

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

- CSI事業
- 構築体制
- 今後の予定と課題

◆機関リポジトリとは何か

- ▶ Institutional Repository (=IR) の訳語
学術機関リポジトリ、レポジトリとも表記
- ▶ 機関別のeプリントアーカイブ
- ▶ 機関内で生産されたさまざまな知的生産物を電子的に収集、蓄積、保存し、機関内外に原則として無償で公開、発信するためにインターネット上に設置された電子書庫、情報発信拠点
- ▶ 世界的な潮流になりつつある

世界の機関リポジトリ



全世界で730を超えるリポジトリ

◆機関リポジトリとは何か

<背景>

▶ Serials Crisis (学術雑誌の危機)

- ◆ 90年代以降、市場の寡占化、価格高騰
- ◆ 購読中止→値上げ→購読中止... 悪循環
- ◆ 日本の大学全体の外国雑誌購読数：
89年約40,000タイトル→現在、20,000タイトル
程度まで激減
- ◆ 研究者からすると、、、論文の読者減少

◆機関リポジトリとは何か

<背景>

▶ オープンアクセス運動

学術情報へのあらゆる障壁のないアクセス

1) オープンアクセス誌の出版

掲載論文を無償で利用者に公開する電子ジャーナル
(<http://www.doaj.org/> 参照)

2) セルフアーカイブ

著者が自分の研究成果を機関リポジトリや自身のホームページから無料で公開する

◆機関リポジトリとは何か

セルフアーカイブ

そもそも論文をインターネットに出していいのか(著作権?)

→Green Journalの増加

Green Journalとは

プレプリント or ポストプリント or プレ+ポストのセルフアーカイブを許諾しているジャーナル(ただし著者版)

<http://romeo.eprints.org/> (94%Green!)

<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>

[参考:日本の学協会の許諾状況]

<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/ir/>

◆機関リポジトリとは何か

このような世界的潮流を受けて...

▶ 学術情報基盤の今後の在り方について(報告) 平成18年3月23日

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境
基盤部会 学術情報基盤作業部会

「(機関リポジトリは)大学からの情報発信力の強化や、大学の社会に対する説明責任の履行の観点から、またオープンアクセスへの対応という観点からも、有用な手法」

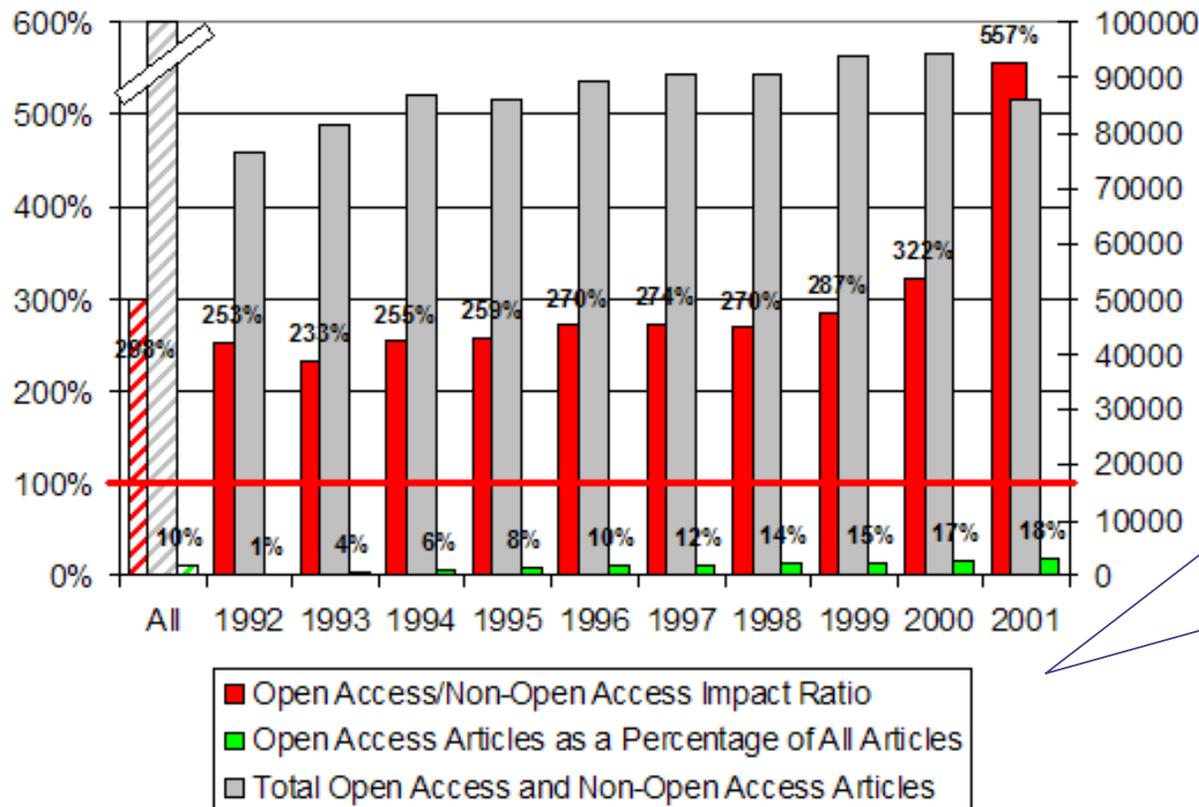
◆機関リポジトリとは何か

<期待される効果・利点>

- ▶ 教育研究成果のVisibility(視認性)とアクセシビリティの向上
- ▶ 社会に対する大学の教育研究活動の説明責任と社会還元
- ▶ 大学で生み出された知的生産物の長期保存
- ▶ 商業出版社が独占する現行の学術出版システムに対する代替システム(遠い将来?)

◆ 機関リポジトリとは何か

Open Access vs. Non-Open Access Citation Impact Ratios
All Physics Fields



被引用率
5.6倍
アップ

Stevan Harnad, Tim Brody, "Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals", *D-Lib Magazine*, v.10, no.6 (June 2004)

<<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>>

大学における教育・研究情報のオープン化

◆機関リポジトリとは何か

メタデータ交換による広範な流布, 相互運用

▶ **OAI-PMH** (Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting)

▶ **データプロバイダ**

各ローカルのリポジトリ. OAI-PMHによりメタデータを開示

▶ **サービスプロバイダ**

OAI-PMHによりデータプロバイダからメタデータをハーベストし, 付加価値のあるサービスを提供する

JuNii (国立情報学研究所), OAIster (ミシガン大学) 等

◆ 機関リポジトリとは何か

[教育研究成果の例]

学術雑誌掲載論文

紀要論文

学位論文

科学研究費報告書

学会発表資料

COE研究成果

講義資料・教材

本学主催シンポジウム記録

貴重資料画像

展示会資料 etc...



著作権？
知的財産権？

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

構築のきっかけ

▶ 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業
= CSI (Cyber Science Infrastructure) 事業
(NIIによる委託事業)

: 最先端学術情報基盤の構築推進のため、大学・研究機関との連携及び支援を目的

: ネットワーク系とコンテンツ系の二本柱

- 平成17年度 19大学に委託される
- 平成18年度 57大学に委託される

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

構築体制

▶ 学術情報リポジトリ検討委員会

「京都大学における学術情報発信システムとしての機関リポジトリについて検討するため、理事（情報基盤担当）の下に学術情報リポジトリ検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。」

（学術情報リポジトリ検討委員会要項 第1条）

13部局から委員が参加

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

構築体制

検討委員会の下に置かれる

▶ システム構築作業部会

データ登録, 活用に必要なソフトウェアや実装機能の開発, プロトタイプの構築を担当

▶ 制度整備作業部会

著作権, 知的財産権に関する調査・研究, リポジトリの管理・運営指針の策定を担当

▶ コンテンツ形成作業部会

登録すべきデータの種類, フォーマット, 利用提供のあり方についての検討, 指針の策定を担当

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

IRシステムスペック

日本HP 社製 ProLiant DL385

CPU: AMD Opteron 275 × 2

メモリ: 13GB

ストレージ: 576GB

OS: SUSE LINUX Enterprise Server 9

IRソフトウェア: DSpace 1.3.2

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying <http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>. The page header features the Kyoto University logo and the text "京都大学学術情報リポジトリ" and "Kyoto University Research Information Repository".

The main content area is titled "京都大学学術情報リポジトリ(試験公開中)" and contains the following text:

「京都大学学術情報リポジトリ」は京都大学内で生産された電子的な知的生産物(学術雑誌掲載論文, 学位論文, プレプリント, 科学研究費報告書, COEプログラム研究成果, 講義資料・教材, 学会発表資料などの学術情報)を永続的に蓄積し, 誰もが無料で読めるようにWeb上で公開するものです。

Below this is a search section with the heading "検索" and the instruction "検索語を入力して, 検索ボタンをクリックしてください。" There is a search input field and a "検索" button.

The next section is titled "このリポジトリのコミュニティ" and contains the text "ご覧になりたいコミュニティを選択してください。" Below this are three categories: "経済学研究科 [5]", "工学研究科 [5920]", and "附属図書館 [3004]".

On the right side of the page, there are two links: "京都大学学術情報リポジトリ準備サイト" and "DSpaceに関する技術的なメモ".

The left sidebar contains navigation links under "リポジトリ検索" (with a search input field and "検索" button), "ブラウズ" (Home, Community & Collections, Title, Author, Date), and "登録利用者" (Item Add/Edit, My Repository, User Info Edit, Help, DSpace info).

At the bottom of the page, there is a W3C XHTML 1.0 logo, the text "DSpace Software Copyright © 2002-2004 MIT and Hewlett-Packard - ご意見をお寄せください", and a status bar showing "イントラネット".

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>

◆京都大学学術情報リポジトリ

今年度の予定

- ▶ 『数理解析研究所講究録』の電子化
北大、東大と共同で国内数学分野文献アーカイブの構築と方向性の確立を目指す
- ▶ 学内紀要類
NIIの紀要電子化事業によるもの + α
- ▶ 図書館報『静脩』
- ▶ 古い学位論文
- ▶ 新しい学位論文, 科研費報告書, Green Journal 文献など

◆ 京都大学学術情報リポジトリ

今後の課題

▶ システムの改善

簡易な登録機能, 有用なアウトプット etc...

▶ コンテンツ収集

全学図書館としての体制作り, 広報活動

▶ 登録へのインセンティブ

何がインセンティブとして働くか？

現時点では...決定的な要素はない

参考ホームページ

- ▶ Open Access Japan

<http://www.openaccessjapan.com/>

オープンアクセスの理念と実情に関する情報を日本語で提供, 交換するページ

- ▶ 国立情報学研究所 次世代学術コンテンツ基盤
共同構築事業

<http://www.nii.ac.jp/irp/index.html>

NIIの委託事業に関する情報を載せたページ